

十勝川流域砂防技術検討会（第2回） 議事要旨

『(1) 平成28年8月出水による十勝川流域の土砂動態評価（案） (2) 十勝川流域砂防技術検討会とりまとめ（骨子）について 』

1. 崩壊面積率は、短期雨量でも評価し、地質もあわせて評価を行うこと。
2. 扇状地区間の定義、段丘形成や流路変動の過程、土砂発生源、巨礫の流下範囲や局所的な河床洗掘、保全対象等を明確にして、床固工群など砂防設備の機能・効果について、今回の出水や既往資料を踏まえて改めて検証すること。
3. 日高山脈東麓および各河川からの流下土砂量の推定について、今回は算出方法にばらつきはあるが、土砂量の規模としては概ね良いと思われる。
4. 十勝川流域の土砂動態の検討には、粒度分布を含む堆積土砂の性状把握などが重要であり、粒径調査等を必要に応じて実施すること。
5. 流木対策は全国的に山腹の発生対策と溪流および河川の流下対策が進められる。十勝川流域も現地の実態を明らかにして、他機関等とも連携して対応方針を検討すること。
6. 全体像は明確になってきたので、今後の対策計画等に反映させることを意識して最終的なとりまとめを行うこと。